



レインボー支援センターだより

岩手県立盛岡青松支援学校
平成26年3月25日発行



本校のセンター支援部では、市町村から障がい児保育・児童生徒巡回指導事業指導員の委嘱を受け、保育園や幼稚園、小中学校・特別支援学校への巡回指導を行っています。支援ケースの中には自分の感情を理解することや、ストレスに対応する力を育てることで、行動のコントロールが期待できる事例があると感じています。今回は本校の実践を紹介します。

<実践事例>

1 対象児：小学部高学年



2 実態

- (1) 学習面では理解力があり、興味のある内容への知識が豊かであるが、新しい事やイメージしにくい事柄に強い拒否反応を示す。漢字の書字や図形、記号の読み取りが苦手である。
- (2) 生活面では集会や行事など、集団活動が苦手であり、大人との安定した関係を好む。表現活動や音読、発表等に強い抵抗がある。また、過去の出来事を思い出し、活動を拒む、泣く、うずくまる、屋外へ出る等の行動がある。
- (3) WISC-Ⅲの検査結果は全般的な知的発達水準は平均。個人内差は、言語性(平均の上) 動作性(平均の下)、群指数の水準は、言語理解と注意記憶で平均の上、知覚統合と処理速度で平均値。
- (4) 検査結果と本児の状況との関連
 - ・ 言語的な情報を処理する力、聴力情報を理解する力は同年齢の児童と比較して良好。
 - ・ 一般的な知識や社会事象に関する興味関心が高い。
 - ・ 視覚的な情報や抽象的刺激を処理する力に困難さが窺える。
 - ・ 手指の不器用さがある。図や記号の読み取り、書字に時間を要する。書字の不正確さが見られる。
 - ・ 指示に従い、決められた時間内に素早く反応することに苦手意識がある。
 - ・ 検査結果では同時処理>継時処理であるが、日常の学習活動の中で検査結果程の優位差を感じない。心理的な影響が予測される。

3 指導方針



(1) 本児の良さを生かす

- ・ 言語能力の高さを生かし、場面や状況、気持ちなどを言葉で確認する。
- ・ 自ら意味を見出すことのできない課題や、抽象的な視覚刺激に言語的な意味づけを行い、取り組みやすくする。
- ・ 同時処理的指導を行い、見通しをもって活動できるようにする。

(2) 心理的な安定を図る

- ・ SSTを学習活動に取り入れ、自分の気持ちを理解し、ストレス耐性を育てる。
- ・ 自分の気持ちを表現したり、リラックスさせる方法を学ぶ。
- ・ 問題を解決する方法を考え、実践する。

4 S S Tと関連付けた学習活動

【 題材 】 「今、心の中にあるものは？」

[ねらい] 自分の気持ちを絵や図に表してモニタリング（客観的に把握）する。
（自分の感情を理解し表現するための活動）

[指導の展開]

- ①最近の出来事について振り返る。
- ②心の中の様子を絵や図で表現する。
- ③変えたいと思うところについて考える。



[指導の手立て]

- ①楽しかったこと、頑張ったこと等を発表する。そのときの感情を言葉で表現する。
- ②今現在の心の様子を視覚的に表現する。心に占める割合について相談しながらすすめる。
- ③心の中に「イライラ」「不安」な気持ちが占める割合が多くなるとどうなるのか考える。

【 題材 】 「イライラ虫を退治しよう」

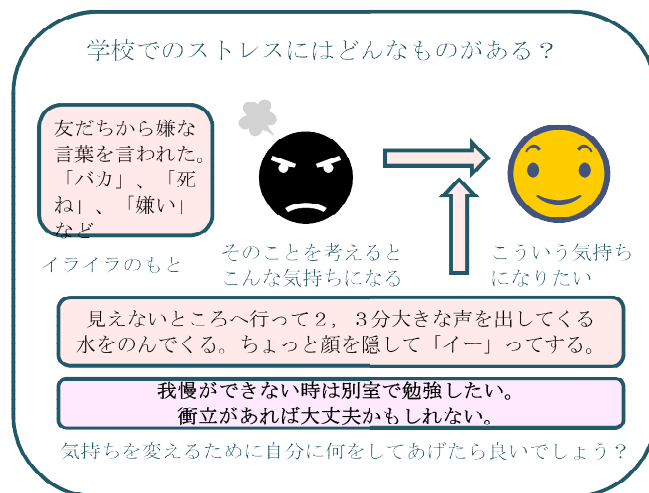
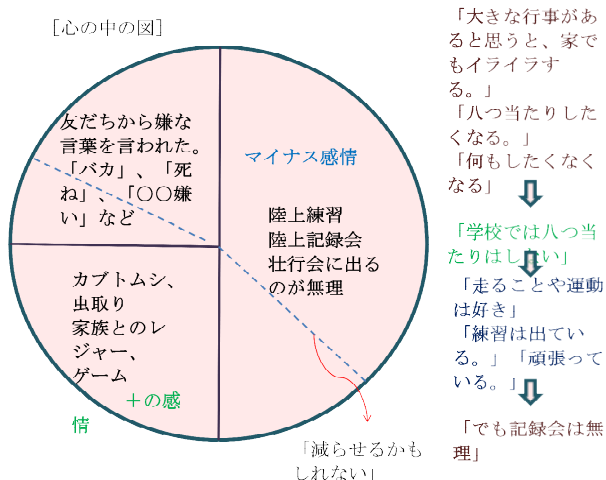
[ねらい] 自分のイライラのもとを理解し、気持ちを変える力をつける。

[指導の展開]

- ①前の時間に書いた「心の中の図」を提示する。
- ②変えたいと思うところについて考える。
- ③具体的な方法を試してみる。

[指導の手立て]

- ①言葉で伝えることが困難な場合は筆談や表情カードなどを使って表現する。
- ②気持ちを抑圧している問題については、深く取り上げすぎないように配慮する。
- ③どんな時にどのような行動でイライラを解消するのか確認する。



教育相談は教職員が児童生徒と寄り添い、向き合い、その個性を生かす関係が保たれていることが大切です。そのためにも、教職員が児童生徒一人一人と向き合うことが可能となる時間の確保や、複数で支援にあたる校内体制を確立することが求められます。子どもたちの困り感を常にキャッチできるようにしたいものです。

